

## 令和2年度入学者選抜学力検査問題 前期日程

### 国語 正解・解答例

#### 解答例

一

〔問一〕 礎 潮流 忌避 愛惜 軽蔑

〔問二〕 国民には、戦争へ赴くことを、「運命」として感受するメンタリティがあり、愛国心に燃えていようが、いやいやながら徴兵されようが、基本的に戦争には行くものだという前提条件は崩れないまま文学作品が描かれるから。

〔問三〕 秋声の作品には、戦争を「運命」として、何の疑問も持たない「国民」の姿が描かれており、戦時には実際にこのような風景があらゆる場所に蔓延したであろうことが、肉感的に感じられるから。(88文字)

〔問四〕 日本文学報国会に入会すること。(15文字)

〔問五〕 近代の文学は近代の国家が生み出した一つの制度である一方、近代の国家は戦争を内包している。したがって、近代の文学には事前的に近代の戦争が読み込まれているということ。

二

〔問一〕 さぞかし、幼い身で長旅にもお疲れになったことでしょう。

〔問二〕 汝いまだ母の胎内にありし時、この播磨渚にて、年は二八の春の頃、熊谷が手にかかり討たれしなり。(46字)

〔問三〕 C＝若君 E＝父御(又は「敦盛」)

〔問四〕 夢が覚めると御堂も敦盛の姿も消え、白く風化し苔の生えた膝の骨だけが叢の中に残るのを見て、亡父の膝枕は夢に過ぎず現実には逢えないと理解する。(69字)

三

〔問一〕 a もっとも b のみと

〔問二〕 X 少しでも自分が私利を好むと自覚している者は、私利を軽んずることができる。

別解 少しでも自分が重視するものを分かっている者は、私利を軽んずることができる。

〔問三〕 Y 名誉を得るには敢えて風変わりなことをするものであり、その名誉を保持するには無理矢理にごまかしをするものだから。

〔問四〕 訓読 己の売す所と為るを知らず。

理由 名誉を好む者ばかりの世の中を嘆いた長老が、ただ一人の名誉を好まない者という名誉を得て喜んだから。(48字)